広島大学附属中・高等学校研究紀要
〈第46号　1999〉

授業の初めの活動としての語彙指導

五　井　千　穂

英語の指導は，コミュニケーション能力の育成を目標になされるべきである。そこで，英語学習を始めたばかりの中学1年生における指導として，授業の初めの時間を使っての語彙指導を試み，その後単語テストによりその定着度を測った。本校の生徒の場合，入学以前にすでに英語の学習経験を持つ者もかなりいるが，その学習経験の有無による影響についても捉えてみた。

Ⅰ．はじめに

授業の初めというのは，何となくざわついたり落ち着かなかったりするものだ。一方で，1時間の授業全体からすれば，リラックスしている時間帯でもある。この時間をその授業のウォームアップとして，授業の雰囲気作りとともにコミュニケーション能力をのばすためにも，うまく活用したいと思っている。

今年度，中学1年生の授業を担当している。入門期ということで，生徒達の英語に対する関心は高い。その中学校1年生の授業において，授業の初めの活動として語彙指導を試みた。その指導における効果がどのようなものであるのかを考えてみたい。

Ⅱ．本校の中1生徒の実状

1. 中学入学以前の英語学習の経験

最近は，中学入学以前に英語学習の経験をもつ生徒が多くなっている。私が担当しているクラス（40名）においても次のとおりである。

中学校入学以前の英語学習の経験あり：24

小学校で：16	幼稚園で：1
保育園で：1	学習塾で：4
英会話塾・英会話学校で：11	
その他（知り合いから：1）	

複数回答

本校の生徒の場合は，週に1度，ネイティブによる英語の授業を取り入れている附属小学校出身の者が多いため，特に入学以前の英語学習経験者の割合が高い。そのことと関係して，ネイティブに習ったことがある者が多い（20名）のも特徴といえよう。

そこで4月当初，戸惑わされたのは，その学習経験の有無による「差」であった。中学での英語の授業が始まった時点での英語に関する知識の差や，英語の授業の雰囲気に対する慣れの差があり，普段の私の授業の中でも，週に1度のネイティブの授業の中でも，しきりに「(英語学習の）経験がない人を残して（進めて）いくんですか。」と言う生徒が出てきた。定期テストの結果でみると，学力面での差は，実のところさほど見られなかった。しかし，精神面では両者で違いがはっきりと表れた。当時の不安を尋ねたところ，学習経験のある者では「不安はない」というものが比較的多いのに対し，学習経験がない者では，ほとんどの者が何らかの不安を抱いている。一方で，学習経験の有無に関わらず，「英語を(ぺらぺらに／日常会話ができるように）話せるようになりたい」「英語が書けるようになりたい，メールを書けるようになりたい」「映画を吹き替えや字幕なしで見たい」など，英語を学ぶことに対する興味，関心は高い。

2. ネイティブによる授業

本校の中学1年生は，週に1時間ネイティブによる授業がある。ネイティブ主導の授業で，教科書の進度とは関係なく進められる。言語活動の多い授業であることから，生徒は全体としては楽しんで授業に参加しているが，新しい表現が出てくる度に，「分からない」などの不安の声をもらす生徒もいる。本年度の場合，次のような表現を学習している。

- What is it? — It's ～.
  What are they? — They are ～.
- I like ～. How about you? — Me, too. / Not really.
- Do you like ～? — Yes, I do./No, I don't.
- Do you like ～ or ……? — I like ～, because it's ～.
- Let's go to ～.
- turn left[right]/go past
  on the left[right]/on the corner
- Where's ～? — It's in [on/between/next to] ～.
- What's she [he] wearing? — She's wearing ～.
- Can you ～? — Yes, I can. I can ～.
  No, I can't. I can't ～.

Vocabulary Building in the Warm-Up
Chiho GOI

・What time do you usually ～?
・I always [usually/sometimes/never] ～.

Ⅲ. 授業の初めの活動としての語彙指導の目的

外国語学習は広義のL2の習得の一つであり，その習得を助長するようなinputを提供することに留意すべきである。そして，理想的なinputは，文法項目中心ではなく，コミュニケーションを第一義とした，理解可能な興味ある言語材料を多量に与えるというものである（Krashen, 1981）と言われている。

では，入門期の生徒たちに対して，どのようなことができるであろうか。私なりに考えたのは，「授業の最初のウォームアップの中で，語彙を多く取りあげるのはどうであろうか」というものである。その指導において，次のようなことをねらいとした。

1. 語彙を増やす

英語学習の入門期ということで，既習の文法事項が非常に限られている。理解可能なinputということを考えると，語彙レベルでの扱いがふさわしいのではないだろうか。日常生活で使う語を中心に，必要なものを教科書での扱いに関係なく取りあげる。文型・文法レベルでは多少つまづいている生徒でも，語彙レベルであれば，理解するのにそれほど苦労しないのではないか。生徒の中には，すでに相当な数の単語を知っている者もいる。そのような生徒については，その生徒の持つ知識を引き出しながら，さらに新しい題材を補ってやることで，興味，関心を維持させることが可能になるように思える。

2. 中学入学以前の英語学習の経験の有無からくる差を縮める

理解可能なinputには，加えて，生徒の心がinputに対して開かれた状態であることも必要であるといわれている。すでに述べたように，中学入学以前の英語学習の経験の有無で，英語に関する知識の差や英語の授業の雰囲気に対する慣れの差，特に，後者が明らかであった。そこで，生徒が不安を感じない形でのinputにもっていくためには，授業の初めに，授業のウォームアップとして，生徒に浴びせるように提供するのがいいのではないかと考えた。書けるように，覚えるようにという強制はせず，発音を聞き，声に出し，その言い回しを楽しむような言語活動をさせながら進めていくことにした。

Ⅳ. 授業の初めの活動としての語彙指導の実践

1. 教科書での扱いに先だって取りあげる

クラスの雰囲気というのは，授業スタイルを考える上で大切になってくる。私が担当しているクラスは元気のいい生徒が多い。時に騒々しくなることもあるが，反応がよく，様々な話題が生徒から提供される。そこで，その話題から発展させて関連する語彙や言い回しの導入ができることが多かった。日常生活に関する語彙（月の名，天候，科目名，季節など）のように身近なものは，教科書での登場を待たずに，カテゴリー毎に示していくつもりではあったのであるが，生徒から出てきた話の流れによって，自然と取りあげることができたのである。

（例１）
生徒：（'What's the date today? — It's～.' を聞いて）
今日はお姉ちゃんのバースデイです！
↓
（導入した表現）・Today is my sister's birthday.
・When is your [your sister's] birthday? — It's ～.
・My birthday [My sister's birthday] is ～.
・Happy birthday.
・I have a present for you.

（例２）
生徒：（下敷きであおぎながら）今日はホット，ホット。
↓
（導入した表現）・hot/warm/cool/cold
・It's ～ degrees Celsius.

このほかには，方角，季節，色，必要に応じて形容詞も同様な流れの中で取り上げた。

2. ネイティブの授業の Review として取りあげる

ネイティブによる授業では，一度の授業でかなりの数のnew wordsが取りあげられることがある。そのようなときには，次時の授業の初めに前時学習した表現を復習するようにした。語彙における復習では，'How do you say ～ in English?' を用いながら行える。この表現は *New Horizon* では，文法的なことは何も分かっていないであろう初めの頃に扉のページで出てきたものであるが，生徒たちはそれほど苦労する様子もなく，使える表現にすることができたようである。

Ⅴ. 単語テストからの考察

Ⅲ．2で述べたように，このウォームアップの中で行う語彙指導では，聞いたり読んだりはするが，

「覚えるように」という強制はしていない。では，その「強制しない」扱いで，その語彙が生徒にどの程度定着しているのか。そこで，単語テストを行い，その定着の実態を探ることにした。

1.「日本語を英語になおすテスト（1回目）」

まず，次の単語（一部，語句）について，「日本語を英語になおすテスト」（1回目）を30分で実施した。つづりがはっきりしない場合でも，発音から考えられるそれらしいつづりでよいから（ローマ字的になってもよい）書くようにと指示をした。ただし，この中には，今回の語彙指導の中でのみ取りあげた語（句）以外のものも含まれている。

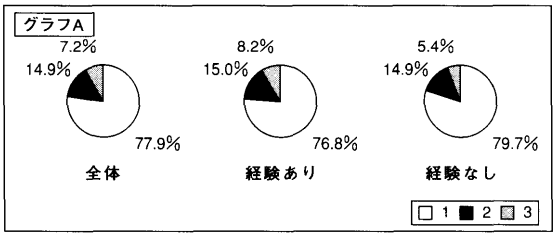
father, mother, brother, sister, grandfather, grandmother, son, daughter, uncle, aunt, cousin, season, spring, summer, fall, winter, Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday, week, date, January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December, birthday, English, Japanese, math, geography, history, science, music, art, calligraphy, P.E., sunny, rainy, cloudy, snowy, weather, hot, warm, cool, cold, 20 degrees Celsius, 80 degrees Fahrenheit, north, east, south, west, red, yellow, blue, green, white, brown, gray, purple, long, short, beautiful, ugly, rich, poor, high, low, expensive, cheap, delicious, favorite, boring, straight, winding, easy, difficult, singer, painter, writer, doctor, scientist, teacher, flag, maple, factory, plane, leaf, zebra, tiger, rabbit, elephant, duck

結果を集計したのが表1のグラフである。なお，次の基準で採点・集計した。

表1：「日本語を英語になおすテスト」（1回目）の結果

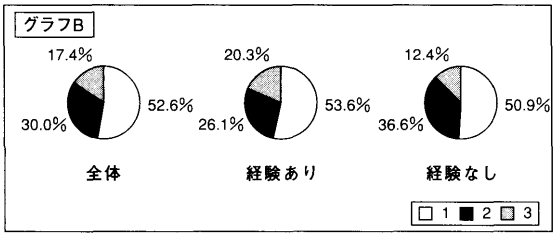
A：教科書既習で，テスト範囲にもなった語

father, mother, brother, sister, grandfather, grandmother, son, daughter, uncle, aunt, Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday, English, Japanese, music, green, interesting, teacher, desk, chair



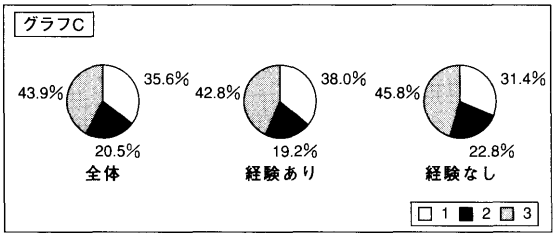
B：教科書既習であるが，まだテスト範囲にはなっていない語

January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December, birthday, math, science, P. E. (Physical Education), sunny, rainy, cloudy, snowy, weather, yellow, white, favorite,



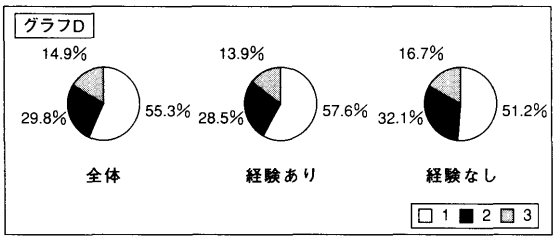
C：教科書では未習である語

cousin, season, spring, summer, fall, winter, week, geography, history, calligraphy, hot, warm, cool, cold, 20 degrees Celsius, 80 degrees Fahrenheit, north, east, south, west, red, blue, brown, gray, purple, long, short, beautiful, ugly, rich, poor, high, low, expensive, cheap, delicious, straight, winding, easy, difficult, singer, painter, writer, doctor,



D：教科書で初期の段階で学習したが，その後あまり取り上げてはこなかった語

flag, maple, factory, plane, leaf, zebra, tiger, rabbit, elephant, duck



・答えが何通りか考えられるものは，集計からは除外した。
・単語を
　A：教科書既習で，テスト範囲にもなった語
　B：教科書既習であるが，まだテスト範囲にはなっていない語
　C：教科書では未習である語
に分類した。
・上記のA，B，Cの語と比較するために
　D：教科書で初期の段階で学習したが，その後あまり取り上げてはこなかった語
という分類も設けた。
・採点基準を
　1：正解
　2：つづりは間違えているが，発音のように読める・発音は分かっているらしいと受けとれる
　3：不正解，記入なし
の3段階とした。
それぞれ，語（句）の分類に応じて，グラフA・B・C・Dと表してある。なお，それぞれについて，全体での割合のものと入学前の学習経験別での割合のものを示した。

ウォームアップの中だけでの学習の語は「C：教科書では未習である語」に分類した語（句）である。ネイティブによる授業の中でも取り上げられた語（句）もあるが，その授業においてはテストを実施しないため，特には「学習を強制されてはいない語」という意味で，この分類に含めた。つづりの正確さまでを求めれば35%程度の定着率で，教科書でも学習した「A」や「B」の語（句）と比べれば低い定着率であるが，そもそも書けるレベルまでは求めなかったわけであるから，これは当然であろう。それでも，発音はできると考えられる，採点基準の「2」の段階も含めて考えれば，50%をこえる。さらに，入学前の学習経験別に見ると，正しくつづることができる「1」の段階では，学習経験のある者の方が多少正答率が高いが，「2」の段階までを含めると，両者の間の差はほとんどないと言っていいほどである。入学するまでに英語の学習経験がなかった者も，このテストを実施した10月頃には授業の雰囲気にも慣れ，4月頃に抱いていた英語学習に対する不安が薄らぎ，リラックスして学習できるようになっていたのかもしれない。実際，4月には何か不安があったという生徒のうちの数人は，この10月の時点では，特に不安はないと言っている。

一方，「D：教科書で初期の段階で学習したが，その後あまり取り上げてはこなかった語」は4月，5月に教科書に登場した語である。入学前の学習経験がない生徒の場合，まだ英語の学習に慣れていない時期に覚えることになり，しかもその後はあまり触れることがなかったというわけである。その状況を考えると，入学前に学習経験のある者よりも定着率が低いという結果であって然りというところであろうか。

2.「英語を聞いてその意味を答えるテスト」

教科書では習っていない語彙でも，授業のウォームアップの中で触れていたことで，50%程度はその語を言い表すことができるようであるということは，表1から分かった。それでは，音声面において，「聞いて分かる」のはどのくらいであるのか。その定着度も確かめておくために，「英語を聞いてその意味を答えるテスト」を行った。次の単語（一部，語句）について，2回ずつ発音されるのを聞いてその意味を答えさせた。

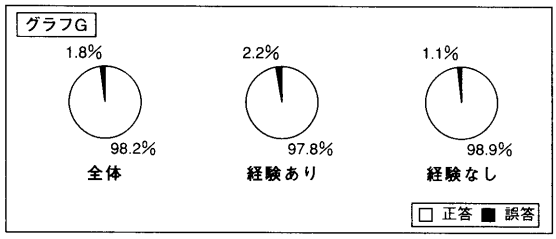
desk, teacher, chair, green, interesting, music, Japanese, English, Monday, Thursday, Sunday, Tuesday, Friday, Wednesday, Saturday, mother, sister, father, brother, son, daughter, uncle, aunt, grandfather, grandmother, April, September, November, March, January, February, May, June, December, August, July, October, birthday, physical education (P.E.), science, rainy, cloudy, snowy, sunny, weather, yellow, white, favorite, math, fine arts, date, homemaking, season, week, winter, fall, spring, summer, geography, history, calligraphy, hot, cold, warm, cool, 20 degrees Celsius, 80 degrees Fahrenheit, north, east, south, west, blue, red, brown, gray, purple, short, long, beautiful, ugly, poor, rich, high, low, expensive, cheap, straight, easy, difficult, singer, writer, painter, doctor, cousin, strange, trouble, trash, century, language, lunch, shape, train, wall, place, miller, festival, social studies, industrial arts and homemaking, leaf, zebra, tiger, rabbit, elephant, duck, French, Portuguese, plane, factory, maple, flag

なお，このテストは定期テストの直後に実施となったため，前回の「日本語を英語になおすテスト（1回目）」に出題した語（句）以外に，テスト範囲に含まれていた語（句）も出題した。また，ここでは，前回の集計での「B：教科書既習であるが，まだテスト範囲にはなっていない語」という分類はできないため，前回の「A：教科書既習で，テスト範

表2：「英語を聞いてその意味を答えるテスト」の結果

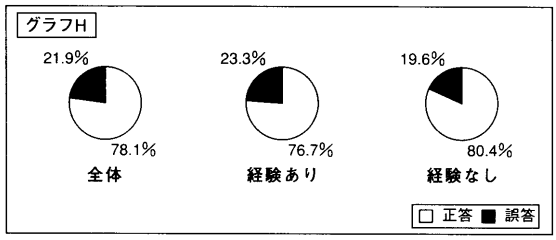
G：教科書既習で，テスト範囲にもなった語

father, mother, brother, sister, grandfather, grandmother, son, daughter, uncle, aunt, Sunday, Monday, Tuesday, Wednesday, Thursday, Friday, Saturday, English, Japanese, music, green, interesting, teacher, desk, chair



H：教科書では未習である語

cousin, season, spring, summer, fall, winter, week, geography, history, calligraphy, hot, warm, cool, cold, 20 degrees Celsius, 80 degrees Fahrenheit, north, east, south, west, red, blue, brown, gray, purple, long, short, beautiful, ugly, rich, poor, high, low, expensive, cheap, delicious, straight, winding, easy, difficult, singer, painter, writer, doctor,



囲にもなった語」と「C：教科書では未習である語」についてのみ集計結果を示すこととする。結果は表2のグラフG（前回の「A」の語句）とグラフH（前回の「C」の語句）で示してある。表1と同じく，全体の割合と入学前の学習経験別の割合も示した。

グラフHに示されているように，教科書で未習である語（句）であっても，発音を聞けばどういう意味の語（句）であるかが分かるという割合は，80%に近い。しかも，入学前の学習経験別で集計すると，経験がない者の方が，わずかではあるがその割合が高くなっているのは興味深いところである（経験あり：76.7%，経験なし：80.4%）。

3. 「日本語を英語になおすテスト」（2回目）

→表3

前項目で述べたように，1回目の「日本語を英語になおす」テストの後に，定期テスト（2学期中間）があり，「B：教科書既習であるが，まだテスト範囲にはなっていない語」に分類した語（句）は，その際にテスト範囲になった。テスト実施後，定着率が上がることは予測できるが，「教科書既習であるが，まだテスト範囲にはなっていない語（句）」と「教科書だけでの扱いだった語（句）」とでは，その定着率に違いが出るのかどうか。

そこで，さらに「日本語を英語になおすテスト（2回目）」を実施した。今回は，そのテスト範囲に含まれていた語（句）について，8分で行った。「日本語を英語になおすテスト（1回目）」で「B」と分類した語（句）は全て含まれている。

January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December, birthday, math, science, P.E.(Physical Education), sunny, rainy, cloudy, snowy, weather, yellow, white, favorite, strange, century, trouble, trash, language, lunch, train, shape, wall, place, miller, festival, social studies, industrial arts and homemaking

結果を示したのが表3のグラフである。なお，採点基準は「日本語を英語になおすテスト（1回目）」の場合と同様で3段階設けたが，集計は次のように行った。

・単語を

E：授業の初めの活動で導入や復習を行った語（句）

F：教科書のみで扱った語

に分類した。

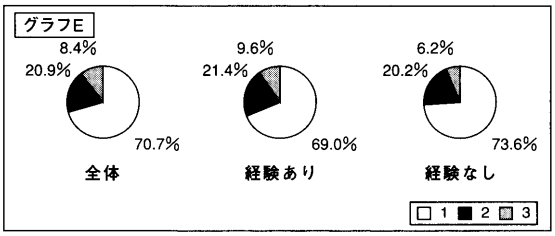
それぞれの分類に応じて，グラフE・グラフFと表してある。なお，表1，表2と同じく，全体の割合と入学前の学習経験別の割合を示してある。

また，前項目での「英語を聞いてその意味を答えるテスト」は，このテストとほぼ同じ時期に実施し，それには「E」「F」に分類される語（句）も出題していたので，その語（句）についての比較も表4のように行ってみた。（グラフI：授業の初めに導入や復習を行った語（句）（＝表3で「E」に分類した語（句）），グラフJ：教科書のみで扱った語(句)（＝表3で「F」に分類した語（句））

表3と表4を見れば，「授業の初めに導入や復習を行った語（句）と教科書のみで扱った語（句）との定着率の違いは明らかである。書き取りの場合も聞き取りの場合も，授業の初めのウォームアップで扱った語（句）の方が，はるかによく定着している。

表３：「日本語を英語になおすテスト」（２回目）の結果

E：授業の初めの活動で導入や復習を行った語
January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December, birthday, math, science, P. E. (Physical Education), sunny, rainy, cloudy, snowy, weather, yellow, white, favorite



F：教科書のみで扱った語
strange, century, trouble, trash, language, lunch, train, shape, wall, place, miller, festival, social studies, industrial arts and homemaking

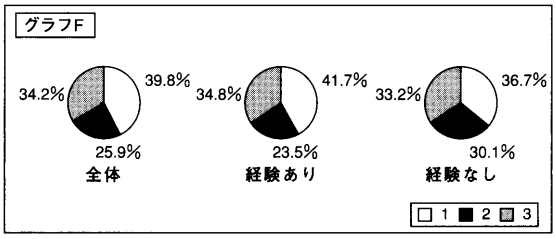
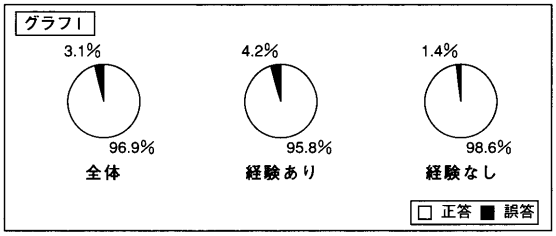
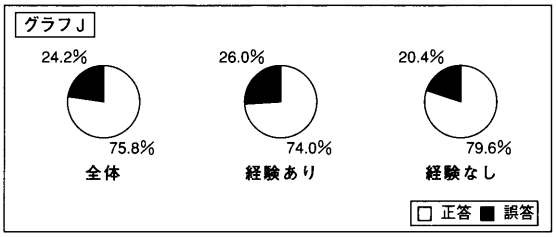


表４：「英語を聞いてその意味を答えるテスト」の結果

I：授業の初めの活動で導入や復習を行った語
January, February, March, April, May, June, July, August, September, October, November, December, birthday, math, science, P. E. (Physical Education), sunny, rainy, cloudy, snowy, weather, yellow, white, favorite,



J：教科書のみで扱った語
strange, century, trouble, trash, language, lunch, train, shape, wall, place, miller, festival, social studies, industrial arts and homemaking



「授業の初めに導入や復習を行った語（句）」には月の名前や天候を表す語が含まれているが，それらは，教科書で扱われるかなり前に取りあげていた語である。教科書に先だって取りあげ，強制はしないものの，聞いたり話したりさせておくと，その後の生徒の理解はスムーズになるようである。

Ⅳ．今後の課題

今回試みてきた語彙指導が理想的な input であるかどうか，その点はまだ自信がない。ただ，表１のグラフＣと表２のグラフＨに表れた数字は，強制をしなくとも定着した語彙の割合を示すものとしては，評価できるのではないかと思う。今回のテストの集計結果を読むにあたっては，単語の難易度（発音をしやすいかどうか・つづりが発音と結びつきやすいかどうか・日本語に外来語として入ってきているかどうかなど）に関して配慮はしていないため，一概に比較するのには問題があるかもしれないが，強制しない扱い方でも，数多く取りあげて input していくメリットは，十分あるように思われる。中学生の間に教科書で学習する語彙は，生活の中で用いられる語彙からすると，余りにも少ない。語彙力をつけることは，中学英語の限られた文法枠の中で，理解力，表現力をつけるために有効な手段になると思われる。これまでは，生徒に提示する形での語彙指導を行ってきたわけであるが，生徒が英語学習に慣れてきた現段階では，自分が必要だ，知りたいと思ったときに，自分で調べる習慣を身につけさせるのも，「理解可能な興味ある言語材料を多量に与える」指導になるのではないだろうか。本校では中学生に，英和・和英が１冊になった辞書を持たせているが，今後はその辞書を活用した指

導も行いたいと考えている。中学1年生の指導は，私にとって未知の分野が多い。今後も試行錯誤が続くであろうが，生徒たちの好奇心と向学心を伸ばすことを目標に研究していく必要性を感じている。

参考文献

安藤昭一 編（1991）「英語教育現代キーワード事典」増進堂

片山嘉雄ほか編（1985）「新・英語科教育の研究」大修館書店

土屋澄男（1990）「英語科教育法入門」研究者出版

渡辺時夫ほか（1988）「インプット理論の授業」三省堂

Krashen, S. D. (1981) "*Effective Second Language Acquisition: Insights from Research*," Alatis, J. E. (eds.) (1981), *The Second Language Classroom: Directions for the 1980's*. Oxford: Oxford Univ. Press